

演題 1. 当院簡易睡眠ポリグラフィーの現状

○山田恵 花澤節子 城之内一美 小林香織 高橋英則
(総合病院国保旭中央病院)

【はじめに】睡眠時無呼吸症候群 (SAS) のスクリーニング検査として在宅で検査が可能な携帯用装置による簡易型睡眠ポリグラフィー (簡易 PSG) が広く用いられており、当院では 2002 年 1 月から検査を実施している。今回簡易 PSG のスクリーニング検査としての有用性を精密検査である終夜睡眠ポリグラフィー (終夜 PSG) の結果などから検討したので報告する。【対象】2006 年 1 月から 2007 年 10 月に当院外来で簡易 PSG 検査を施行した 197 名 (男性 159 名、女性 38 名) 平均年齢 52 歳 (18~80 歳) を対象とした。【方法】簡易 PSG で得られた無呼吸低呼吸指数 (AHI) の数値から AHI5 以上 15 未満を軽度、15 以上 30 未満を中等度、30 以上を重度と分類し、性別、年齢について比較を行なった。簡易 PSG と終夜 PSG を実施した症例では各々の AHI を比較検討した。また、記録不良で正確な判定が困難であった症例について不良の原因を検討した。【結果】軽度以上の所見を認めたものは 140 名 (71%) で、男性 120 名 (76%)、女性 20 名 (53%) と男性が高値であった。各分類における性別、年齢による差は認められなかった。簡易 PSG と終夜 PSG の比較では、簡易 PSG で軽度・中等度であった 15 例中、6 例が終夜 PSG では重度と判定された。記録不良は 40 例 (20%) に認められ、その理由は気流センサー不良、SpO₂ センサー不良、検査時間の不足であった。【結語】簡易 PSG は技師が検査と機器の説明し被検者が在宅で行う簡便な検査で、SAS の検出率も高く、SAS のスクリーニング検査として有用性に優れた検査と考えられた。しかし自動解析では記録不良による誤判定を生じる場合もあり、正確な検査結果を得るためには、被検者の検査に対する理解を得るための説明の工夫と、機器の保守管理が重要である。また、簡易 PSG で軽度・中等度と判定された場合には終夜 PSG を施行して診断する必要があると思われる。 0479-63-8111 (5116)